

2023年8月4日

関係各位

株式会社パテント・リザルト

【電力・ガス・石油】他社牽制力ランキング 2022 トップ3は出光興産、大阪ガス、中国電力

弊社はこのほど「電力・ガス・石油業界」の特許を対象に、2022年の特許審査過程において他社特許への拒絶理由として引用された特許件数を企業別※に集計した「電力・ガス・石油業界 他社牽制力ランキング 2022」をまとめました。

この集計により、直近の技術開発において競合他社が権利化する上で、阻害要因となる先行技術を多数保有している先進的な企業が明らかになります。

集計の結果、2022年に最も引用された企業は、1位 **出光興産**、2位 **大阪ガス**、3位 **中国電力**となりました。

【電力・ガス・石油業界 他社牽制力ランキング 2022 上位10社】

順位	企業名	引用された特許数
1位	出光興産	575
2位	大阪ガス	462
3位	中国電力	377
4位	ENEOS	366
5位	東京ガス	339
6位	東京電力ホールディングス	265
7位	関西電力	174
8位	EXXONMOBIL CHEMICAL PATENTS	112
9位	中部電力	99
10位	東邦ガス	63

※ 当ランキングは、企業グループを考慮した名寄せ処理を用いて算出しています。

【ランキングの集計対象について】

日本特許庁に特許出願され、2022年12月までに公開された全特許のうち、2022年1月～12月末の期間に拒絶理由（拒絶理由通知または拒絶査定）として引用された特許を対象に、抽出・集計をしています。また本ランキングでは、権利移転を反映した集計を行っています。2023年5月時点で権利を保有している企業の名義でランキングしているため、出願時と企業名が異なる可能性があります。なお各企業の業種につきましては、総務省の日本標準産業分類等を参考に分類しています。

1位 **出光興産**の最も引用された特許は「リチウム電池用電極材料シート」に関する技術で、富士フイルムや本田技研工業などの計5件の審査過程で引用されています。このほかには「酸化物半導体を用いた電界効果型トランジスタ」に関する技術が引用された件数の多い特許として挙げられ、半導体エネルギー研究所の計5件の拒絶理由として引用されています。

2022年に、出光興産の特許によって影響を受けた件数が最も多い企業は半導体エネルギー研究所（76件）、次いでトヨタ自動車、MERCK（いずれも14件）となっています。

2位 **大阪ガス**の最も引用された特許は「燃焼排ガス中の二酸化炭素のメタン化方法」に関する技術で、三菱マテリアルの計6件の審査過程で引用されています。このほか「蓄電池制御システム」に関する技術が引用された件数の多い特許として挙げられ、東京ガスや日立製作所などの計4件の拒絶理由として引用されています。

2022年に、大阪ガスの特許によって影響を受けた件数が最も多い企業は東京ガス（29件）、次いでハーマン（19件）です。

3位 **中国電力**の最も引用された特許は「使用者が片手で携帯端末装置を操作する際の利便性を向上する携帯端末装置」に関する技術で、末次功憲氏の計3件の審査過程において拒絶理由として引用されています。

2022年に、中国電力の特許により影響を受けた件数が最も多い企業はパナソニックホールディングス（16件）、次いで東芝（13件）となっています。

4位 **ENEOS**は「透明導電薄膜の製造法」、5位 **東京ガス**は「温水機器用リモコンへのコンテンツ配信を可能にしたコンテンツ管理サーバ」が、最も引用された特許として挙げられます。

* * *

また弊社では、ランキングデータを下記の通り販売しています。

【電力・ガス・石油業界 他社牽制力ランキング 2022 データ】

- ▶納品形態：以下のデータを収録したエクセルファイルをメールで御納品※
（※データ一式を収録したCD-Rでの御納品をご希望の場合はご相談ください）
 - ・ランキング トップ30社：本業界の被引用件数上位30社のランキング
 - ・被引用件数 トップ100件：本業界の被引用件数上位100特許、及び引用先の特許との対応
- ▶価格：50,000円（税抜）

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社パテント・リザルト 事業本部 営業グループ

URL：<https://www.patentresult.co.jp/>

e-mail：info@patentresult.co.jp